

ショーソンのヴァイオリンパート 演奏にあたってのお願い

2004.11.23

表の見方：小節番号での数字は、練習番号から数えて何小節、-の数字は練習番号の前何小節という意味です。

第1楽章

パート	練習番号	小節番号	場所	演奏のご参考に！
Vn I	Vn II			
			最初の Allegro vivo	短前音は拍の前に出さずに「オン・ザ・ビート」で、しかも短めに。
	B	9		16分音符を全部弾こうとせずに、拍の頭の音を捉えて遅れないように。
	B	25	主題部 Allegro molto	速くて大変ですが、テヌート(音を保って)を心がけてください。再現部も同様です。ドイツ音楽ではなく、フランス音楽だという意識を持ってください。厳格に拍を刻むことよりメロディの流れるのに身を任せてみてください。そんな余裕はない方は気持ちだけでも！
	D			木管を聴きながらカウントしましょう。但し、数えていることは悟られないように！
	E	-2	Gisの伸ばしの最後の2小節	Vn II と Vc のリタルダントを聴いてください。
	E	-2	rit. の2小節	指揮を見てリタルダント。あなたが主役です！ とびきり美しく、豊かな音で。
	F	-12	doux(優しく、滑らかに)	3小節目の下りではポルタメントを掛けないで下さい。できれば移弦で。練習番号 N も。
	F	4	rit.	指揮者や前を見てリタルダントします。
		21	フォルテ	その前のトレモロはモルト・クレッシェンド。頂点のAの音は爆発的なフォルテで(特に Vn II)。
			13小節休んで出るところ	鋭いスフォルツァンド sfz。Vn II も同様に sfz をつけてください。しかし美しく！
	G	-4	キザミ	p でも大きめ。最初の音にアクセントをつけて。中弓がいいかも。集中力がものを言います。
	G	10	キザミが始まるアウフタクト	四分音符にスタカートをつけてください。キザミは頑張ってください！中弓です。
	H			3小節目に入るときは神経を使いましょう。FgとVcの音型が聴こえれば上出来です。
	I		トレモロまでの13小節間	弓の真ん中から元で。特に8小節目以降は元です。Du talon=踵、つまり弓の元です。
	J	-1	トレモロ	リタルダントをお忘れなく。デミニユエンドはし過ぎないように。
			4ページ目の一番下から	ここから3つ振りと2つ振りが交互にあり、テンポが大きく動きます。前を見てついてきてください。このあたり、ラヴェルの「ダフニスとクロエ」などを連想させる箇所です。特に、5ページ目の4段目の7小節休んだ後の下降音階はドビュッシーの「海」の冒頭にそっくりです。クリスタルのような響きをイメージして弾いてみてください。せっかくのフランスものですから、こんな風を楽しむのも一興です。
	K			大変な箇所ですが、力まずに頑張ってください。弦がごしゃごしゃ弾いている時に金管は朗々と旋律を歌います。サンサーンスの3番の交響曲を想起させますが、ルーツはワーグナーの歌劇「タンホイザー」序曲かな？…なんて考えながら私は弾いています。
			5ページから6ページへのめくり	できれば6ページ目の上半分をコピーして4ページ目に貼ってください。貼る場所を知りたい方、コピーがほしい方は宮川まで。

第2楽章

		冒頭	p sfz	ピアノでも、最初の音から中身のあるしっかりした音で。
		4-6	mf	Vn I はピアノで弾いていますので、遠慮なくしっかりメゾ・フォルテで弾いてください。
	A		p	クラリネットといっしょ。Vn I はDの音を伸ばしているだけですから、しっかり弾いて！
	B	-8	sur le touche	指板寄りでのレロです。ソフに。でも、ウラで8分音符を弾く方はやや硬く、はっきりと。
	B	9	8分の12	指揮者をよく見て！特に3小節目の後半は8分音符を1つで振ります。
	C		doux et tres chante	優しく、しかも、たっぷり歌って。ファースト、セカンド全く同じユニゾンです。
	D	-1		リタルダントなし、インテンポでDに入ってください。木管が旋律を受け継ぎます。
	最後	-7	p	2小節間、3拍目を押し込むようなアクセントをつけてください。
	最後		トレモロ	トレモロの最後は弓を上方に上げてください。単に見栄えですが…昔、「音が中空に舞うように」とこういう箇所の弾き方を教わりましたが、よく考えると変ですよ？音はどんな弾き方でも出せば中空に向かって発せられますから…。

第3楽章

		冒頭	Anime	ここも talon ですから弓の元で弾きましょう。
	C	-12	augmentez insensiblement	徐々に無神経に…これは何と解釈すべきか？…荒々しく髪を振り乱して、でしょうか！
	C	17	mf	練習の時に何度も弾かされて大変な箇所ですが、肩の力を抜いて弾いてみましょう！
	D			リキを入れて弾くのはクレッシェンドの半音階です(最初と最後に全音がありますよ！)。
	D			オーボエを聴きましょう。ピアノ2つです。7小節目からはクラリネットです。
	E	-19	3連符	縦をそろえることより雰囲気が大事です。VcCbの伴奏ですから。
	F	-4		Fまでの4小節間、ハーブが入ると弾きやすくなりますが、主役はハーブです。
	I	-9		ここもドビュッシーを連想させます。つまらない音符だなぁ、なんて思わないでね！
	I	-1		Des(レのフラット)の音を追加しています。
	P		Modere	セカンドの方はご苦労様です。ここは湖面で Vn I の白鳥が優雅に泳いでいるときに、白鳥の足(Vn II)が水面下で必死にバタバタ水をかいている様をお考えください。水中の騒動なんて外には聴こえないし、白鳥はその苦労を決して顔に出さないのです。

終わりに

普段演奏するドイツものではない、フランスの音楽ですから、いつもと違った角度から音符を見ることも大事です。残り2週間ですが、その「フランス的」とはどんなことか、なんて考えながら練習してみてください。たまには、弾く時の自分の姿を鏡に映してはどうでしょう？ブラムスを弾く時とショーソンの時では違うはずですよ？短い期間では答えの出ない命題ですが、考えながら演奏した経験は、明日の皆さんの演奏をほんのちょっぴり豊かにするはずです！

Good Luck !